

異校種間の学びの連続性を重視した教育の推進 ～ふるさとを心に宿す子どもを育てるための連携・一貫教育の推進～

長野県小谷村立小谷小学校 松尾 修

I 現状と課題

1 現状認識

少子高齢化が進み児童数が減少する中、北安曇郡でも将来を担う子どもたちに寄せる地域住民の期待は大きい。生まれ育った故郷への愛着と誇りを持ち続ける子どもの育成に向けて、各市町村ではコミュニティスクールを立ち上げ、学校と地域が一体となって子どもを育てる気運が高まっている。また、校種間の連携を強化し、教育活動の充実を図るために、連携・一貫教育が取り入れられ始めている。

2 課題分析・アプローチの視点

連携・一貫教育には、系統性・連続性を考慮した学びの質の向上、地域による支援を保小中で分断させないよさ、異年齢や地域の人々等多様な人との関わりを得られるよさ、学校間での子どもの情報共有のしやすさ、特別支援教育の充実等のメリットが期待できる。子どもたちの成長を長期的に見通し、核にして取り組む事項を明確にして推進していくことが必要である。

II 研究の概要

1 義務教育学校の取り組み

美麻小中学校は、昨年度、小中併設校から義務教育学校となった。「個の生き方や考え方を尊重する学校づくり」を教育理念とし、教育課題を「協働の学びの質を高める」と定め自律した学習者の育成を図っている。

教育課題達成のための重点として学びづくりを掲げている。義務教育9年間で4・3・2の課程に区分し、3つの課程を貫く授業のあり方として、「聴く・問う」から始まる対話活動を基盤とした「協働の学び」を位置づけている。もう一つの重点として集団づくりを掲げ、児童生徒に「リーダーとフォロワー」というキーワードを浸透させ、双方のよい関係性について考えさせる場を重視して教育活動を行っている。また、地域とつながる活動を「美麻市民科」と名付け、地域住民との対話、協働を通して、ふるさとを愛し思い続ける児童生徒の育成を図っている。

校長は、一貫教育を進めるためのビジョンを明確に教職員に伝えるとともに、授業や教育活動が教育理念、教育課題に沿ったものになるよう児童生徒の学びのよさを取り上げながら繰り返し働きかけた。

2 保小中一貫型教育の取り組み

小谷村では、村の教育大綱の基本理念「小谷に育ち、小谷を愛し、小谷を育てる人づくり」に基づき、「おたり愛を育む地域に根ざした保育・教育活動」を保小中一貫型教育の基本的な立場として位置づけている。背景には、平成28年度に発足したコミュニティスクールによる幅広い地域支援がある。年間5回の保小中合同職員会議を実施し、第1回目の全体会で全職員の共通理解を図り、第2回以降は、

部会や小中学校職員による保育実習、授業づくり研修会などを行っている。推進組織として、保育・授業づくり部会・特別支援教育部会・ふるさと学習部会・特色ある教育活動（スキー・英語）部会・健康づくり部会の6つの部会を編制し、それぞれの指針に基づく活動を進めている。

校長は、合同職員会議において基本理念や組織の活動指針について共有化を図ると共に、各部会の活動が円滑に進むよう助言した。また、園長や中学校長との連携を図り、一貫した教育活動や異年齢交流等が円滑に推進されるよう働きかけた。さらに、地教委との連携を図り、村費職員の効果的な配置や英検補助などの予算的な措置を実現した。

III 成果と課題

1 成果

美麻小中学校では、9年間を貫いた学びづくりを系統的に積み重ねることで、学年を追うごとに学び方の基本が身に付き、質の高い協働の学びを実現している。そこでは、学習に苦手意識を持つ児童生徒が、友と語り合うことで安心して学習に取り組む姿へと変容する姿が見られる。小谷村では、地域との関わりが深い教育活動を継続的に行うことにより、年齢が上がるにつれて、地域に感謝の気持ちを持つ姿から、自分達の力でできる地域貢献を考える姿へと意識の向上が見られる。いずれも、一貫した教育活動により、学年を重ねるにつれて成長している子どもの姿である。

また、子どもについての情報共有がなされやすい体制が作られているため、不安や課題を抱える子どもへの適切な対応がとりやすく、不登校の解消につながっている。

2 課題

連携・一貫教育が果たす役割は大きいですが、それぞれの取り組みが教育課題の解決につながるようPDCAサイクルを回していく。美麻小中学校では目指す子ども像の地域との共有、小谷小学校では学校評価項目・指標の共有化が今後の課題である。また、郡内各校は、規模や地域性がそれぞれ異なっていることから、他市町村の取り組みを参考にしながら実態に応じた連携・一貫教育の推進を図っていく。

IV 提言

- 1 校長は、児童生徒を長いスパンで継続的に育てるために、地域の願いを理解し、期待できる教育効果を教職員に示して、連携・一貫教育への意識づけを図る。
- 2 校長は、異校種間で連続性のある教育活動を進めるために、地教委、園長、中学校長との連携を図るとともに、実効性のある組織による体制づくりを進める。
- 3 校長会は、郡内で先進的に進められている連携・一貫教育のよさと課題について情報交換を行うことにより、それぞれの地域の実情に合った取り組みを進めていく。